

八幡門前自治会がある地区の歴史小話（令和3年9月）

1. 八幡門前自治会の名称の由来



この地区には、昔は左図にあるような字（町村の区画の名）が付けられていました。

当自治会内では、葛飾八幡宮を中心とした区域が「宮之内」（八幡2-2の大部、八幡4-2～4、9～11の大部）。

右奥（北東側）に「八幡蔵屋敷」（八幡4-14の大部）、「入谷前」（八幡4-11、12の一部）。

神社の右（東）側と市川学園幼稚園の前の道路に挟まれたれた区域が「宮ノ脇」（八幡2-1の大部、八幡4-1）、その下（南側）に「森下」（八幡2-1の一部）。

神社の左下側（南西側）に「四枚割」（八幡2-3～4の大部）と「宮之窪」（八幡

2-2及び4の一部）。

（図は『市川市史 歴史編Ⅲ』附図より）

現在の国道14号は江戸時代は「佐倉道」、古代は「東海道」と昔からの幹線道路で、「上町」と「下町」の境界を通っています。

市川学園幼稚園横の道路は「後土川」の跡です。幼稚園側の八幡5丁目には「合戸」「後土」が付く字名があります。これは各地にある「神戸」（こうべ、かんべ、ごうど）と同様に神社に付属する封戸（税を納めて神社を支える民家）があった場所の地名ですから、葛飾八幡宮に因んだ地名でしょう。昔の川沿いですから水が溜まりやすい。そして、この道路は5丁目の水木洋子邸に入る箇所です。ここが谷と認識され、その前が「入谷前」となっているのだと思います。上記地図の範囲外ですが、この道路のエコピアの先からドルティア角に抜ける道も不自然ですが、衣川の跡です。

神社を中心とした場合の地名には上記したように「宮」が付きます。船橋大神宮の近くに宮本という地名があります。ただし東京の富岡八幡宮のある駅は門前仲町です。

「門前」とは神社でなく寺に使います。明治維新後に神仏分離令が出るまでは、神社と寺は神仏習合（神仏混淆）…日本では仏・菩薩が仮に神になった…という思想で、葛飾八幡宮にも法漸寺という天台宗の寺院が別当寺（神社を管理する為の寺）として併設されていた名残です（鐘撞堂は寺の施設）。

江戸時代の「寛政二年葛飾八幡宮境内図」には、八幡2丁目2の辺りは「門前百姓地」と明記されています。法漸寺があった時代の「門前」が自治会名になったのでしょうか。

字名の由来は、その後の地形の改変や、古語の為にわからなくなっていることも多いですが、古語では崖が真間、湿地が須和（諏訪）のように土地の性格も示しています。

「森下」は不知八幡森の前からか？「八幡蔵屋敷」は法漸寺に関係するの？「四枚割」は門前百姓地の畑に関する地名か？「宮之窪」は窪地だったのか？隣の自治会の「花輪」は音で塙と同義で、小高い所だったのか？「宮堀」は堀があったのか？